

## 第7次斜里町総合計画（案）に関する意見公募の結果について

### 1 意見公募手続（パブリックコメント）の実施状況

(1) 募集期間 令和5年12月26日（火）から令和6年1月14日（日）

(2) 意見の応募者数 3件（3個人）  
うち、有効者数 3件

(3) 提出方法の内訳

	持参	郵送	FAX	電子メール	オンライン
件数（有効者）	0	0	0	3	0

(4) 意見提出者の区分（人）

内 容	意見数
町内に住んでいる人	3
町内の学校で学んでいる人	
町内の会社で働いている人	
町内に事業所又は事業所を有する法人及びその他の団体	

(5) 意見の内容 12件

内 容	意見数
「全体」について	1
1-1 「世界自然遺産知床」の魅力の発信と共有	6
2-1 魅力と活力にあふれた次世代農業の実現	2
2-3 魅力的で持続可能な選ばれる観光地づくりの推進	3

## 2 意見の概要と町の考え方

### (1) 「全体」

No	寄せられた意見の概要	町の考え方・対応
1	<p>全体について</p> <p>計画書にはどれも素晴らしい内容と目標が表記してありますが、すべての計画を実行することはとても困難なものと感じています。そこで、①すでに実行している項目 ②一番手に実行する項目 ③町長が必ず成し遂げたい項目④実行するには難しい項目 など、項目の優先順位をつけて頂けると協力させて頂く町民や団体も町の意思を汲み取りながらの協議が可能となり、より合理的に話し合いが行われるものと考えますがいかがでしょうか？</p>	<p>本計画は、10年間という長期にわたっての総合的かつ、計画的な町政運営を図るために策定しています。このため、町民の皆さんにとって、ご指摘のように範囲が広すぎる、具体性に欠けるといった点があるかと考えますので、個別の行政計画や、毎年の予算の説明などでの分かりやすい表現に努めることとし、原案どおりとします。</p> <p>なお、本計画では、ご指摘の優先順位とは異なりますが、今後10年間で予定する「大型事業」、また基本施策の枠組みを超えて、横断的に、連携して取り組むべき「連携施策」をお示ししています。</p>

### (2) 1-1 「世界自然遺産知床」の魅力の発信と共有

No	寄せられた意見の概要	町の考え方・対応
—	<p><b>【1-1-2】野生生物と人との共存について</b></p> <p>「・・・ウトロ市街地へのヒグマの出没が日常的に発生している」について</p> <p>2023年はヒグマが市街地内や農地に次から次へと侵入し、人身事故のリスク等を含めて、軋轢が過去に無いほど増大した。特にウトロ市街地は市街地内を電気柵で囲うなど、防除にも力を入れている地域であるが、ヒグマは電気柵を設置できない道路や河川等から次々と侵入した。大量出没は、知床地域では過去3度発生しており、その都度軋轢は増大している。防除と並行して、ヒグマに対して適切な捕獲圧をかけない限り、クマは自然増加していき、現状のままでは再び同様の状況が発生することは目に見</p>	

	<p>えている。このようなヒグマの大量出没が繰り返されることは、地域住民にとっては極めて大きなリスクであり、町民は安心して生活することができない。加えて、市街地内で人身事故が発生すれば、町の大きな産業の一つである観光にも大打撃を与えかねない。また、ヒグマの駆除活動を行っている捕獲従事者にも多大なリスクが生じている。野生生物の保護管理活動とあるが、ヒグマに関しては保護をしている場合ではない。知床半島ヒグマ管理計画では、ヒグマが高密度に生息していることを管理目標とはしておらず、その生態及び個体群を将来にわたって持続的に維持することを目標としている。高密度の状態を維持する必要はない。国が検討しているように、斜里町においても銃器や箱わなを用いてヒグマの個体数管理に踏み込み、住民も安心して生活でき、かつヒグマが絶滅しない水準で維持するための対応をすべきである。このまま軋轢が増大すれば、地域住民のヒグマに対する感情もネガティブなものとなっていき、ヒグマの適正な保全という概念すら成り立たなくなる恐れがある。第7次斜里町総合計画(案)では、ヒグマ対策に関する具体的な方針や施策案が何も示されておらず、計画として不十分である。このような背景から、以下を求める。</p>	
2	<p>2023年に発生した大量出没を踏まえた記載内容に変更する。</p>	<p>本計画は、斜里町のまちづくりの長期指針としての方向性をまとめたものであり、計画の総合性、他分野との統一性の観点から原案どおりとし、個別計画の中で記載を検討します。</p>
3	<p>防除と捕獲は両輪であるが、その概念が計画から欠如しているため、これまで実施してきた防除などの施策に加えて、ヒグマの個体数管理の概念を計画に導入する。</p>	<p>ヒグマをはじめとするクマ類の保護及び管理に関する施策については、今年度の全国的な被害の発生を踏まえ、現在、国において検討がなされているところであり、知床地域でも道の上位計画や、知床世界自然遺産科学委員会ヒグマワーキングでの議論を踏まえながら、人との共存に向けた議論を進めることとし、原案どおりとします。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>

4	<p>具体的な施策の記載がない。防除や普及啓発だけではヒグマの人里周辺への出没を抑止することはできないため、こういった施策に加えて具体的に町としてどういった対策を実施していく方針なのか記載する。</p>	<p>本計画は、斜里町のまちづくりの長期指針としての方向性をまとめたものであり、計画の総合性、他分野との統一性の観点から原案どおりとし、個別計画の中で記載を検討します</p>
5	<p>「関連する個別計画」に斜里町鳥獣被害防止計画の記載があるが、2023年のヒグマの大量出没を踏まえた計画内容に改訂すべき。また、鳥獣被害防止協議会でどのような事が話し合われているのか不明であるため、議事次第や会議資料、議事録などを町民が閲覧できるように公開してはどうか。</p>	<p>個別計画である斜里町鳥獣被害防止計画の改訂を検討することとし、本計画については原案どおりといたします。      いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>
6	<p><b>【1-1-2】野生生物と人との共存について</b>      2023年の大量出没を踏まえた記載に変更するべきである。2023年のヒグマの大量出没は災害に匹敵するようなレベルであり、住民生活に多大な支障を生じさせるだけでなく、観光に大きなリスクも生じさせた。知床は過去2回の大量出没を経験しており、2023年の大量出没は3回目、現状の対応を続ければ将来的に2023年に匹敵もしくは上回る大量出没が将来的に発生することが予見される。大量出没を発生させないためにはヒグマの個体数をより厳格に管理する必要がある。住民生活を守るため、ヒグマの個体数を1990～2000年代初頭程度に抑制するべきである。</p>	<p>ヒグマをはじめとするクマ類の保護及び管理に関する施策については、今年度の全国的な被害の発生を踏まえ、現在、国において検討がなされているところであり、知床地域でも道の上位計画や、知床世界自然遺産科学委員会ヒグマワーキングでの議論を踏まえながら、人との共存に向けた議論を進めることとし、原案どおりとします。      いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>
7	<p><b>【1-1-3】自然環境の保全と適正利用</b>      ●国立公園内利用適正化対策の推進について、アクティビティニーズの多様化や普及啓発を目的として、数年前に知床自然センターの映像館および映像コンテンツへ多額の投資（施設改修やソフト刷新）を行った経緯がある。経緯を踏まえ、数値目標に映像館に関する項目（キネトコへの入館者数等）を追加するべきではないか。</p>	<p>ご意見をもとに、数値目標に「KINETOKO 入館者数」を加えます。</p>

(3) 2-1 魅力と活力にあふれた次世代農業の実現

No	寄せられた意見の概要	町の考え方・対応
8	<p><b>【2-1-1】農地の整備・保全</b></p> <p>単位施策の3番「鳥獣被害防止対策の推進」の項目において、「エゾシカ等の鳥獣による農作物被害防止を図るため、国の交付金や道営事業などを活用し、集中的な捕獲活動、農地の侵入防止策の整備・保全、電気柵資材の提供などの取り組みを総合的に支援します。」という記載があるが、昨今のヒグマの出没状況を鑑み、以下の記述への変更を求める。防除と共に捕獲も並行して進めなければ、被害の低減は達成されない。</p> <p>「エゾシカやヒグマ等の鳥獣による農作物被害防止を図るため、国の交付金や道営事業などを活用し、集中的な捕獲活動、農地の侵入防止策の整備・保全、電気柵資材の提供を行う。加えて、鳥獣の出没状況に応じて、銃器や箱わななどの捕獲手法が適切に選択されることで捕獲が滞りなく実施されるようにし、捕獲圧を強化することで、鳥獣対策に関わる取り組みを総合的に支援します。</p> <p>また、農業従事者や捕獲従事者の被害感情、被害意識などをモニタリングし、施策に反映させることで順応的な被害対策を実施します。」</p>	<p>ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正。</p> <p>「エゾシカやヒグマ等の鳥獣による農作物被害防止を図るため、国の交付金や道営事業などを活用し、集中的な捕獲活動、農地の侵入防止策の整備・保全、電気柵資材などの被害防除の取り組みを総合的に支援します。</p> <p>ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
9	<p>「エゾシカなどの鳥獣による農作物被害が年々増加しているため、電気柵の設置や保全などの対策を行い、安心して農業生産ができる環境をつくれます」とあるが、鳥獣対策において防除と捕獲は両輪である。「電気柵の設置や保全、有害鳥獣の捕獲などの対策を行い」と記載すべきである。</p> <p>また鳥獣被害防止協議会を書面ではなく対面で開催し、関係機関が協力連携して被害防止に取り組む体制を構築すべきである。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正。</p> <p>「エゾシカなどの鳥獣による農作物被害が年々増加しているため、<u>防除と捕獲の両面から鳥獣被害防止対策を推進し</u>、安心して農業生産ができる環境をつくれます」</p> <p>ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>

(4) 2-3 魅力的で持続可能な選ばれる観光地づくりの推進

No	寄せられた意見の概要	町の考え方・対応
10	<p><b>【2-3-2】</b> アクティビティの拡充とリスク管理体制の確立</p> <p>「関係行政機関が連携してプログラムが提供された環境をつくる必要があります」とあるが、文章として意味がわかりにくいため修正が必要である。また多様なプログラムが提供されている状況を作りたいということであれば、ガイドの事業者数やプログラム数を数値目標としてはどうか。</p>	<p>ご指摘のとおりですので、「提供された」を「提供されやすい」と修正します。</p> <p>また、数値目標に関し、「カムイワッカ湯ノ滝のぼり参加者数」を削除し、「自然体験プログラム提供事業者数」を新たに加えることとします。 (当初 (R4) 26 事業者、中間 (R9) 28 事業者、目標 (R14) 30 事業者)</p>
11	<p>多様なプログラムが必要と記載しつつ、数値目標がカムワッカ湯の滝の参加者数というのは整合性が取れないと考える。ガイドの事業者数やプログラム数を数値目標としてはどうか。</p>	<p>前項 NO.10 後段の回答のとおりです。</p>
12	<p>リスクマネジメント制度には、事故に関する情報の共有とその後の検証が必要だと考えるが、現状は不十分ではなかろうか。ひやりはっと事例も含めて、情報の共有とその後の検証を行っていく必要がある。</p>	<p>ご指摘のとおりと認識しています。現在「知床アクティビティリスク管理体制検討協議会」での議論の結果、情報の共有等に関する体制を整えることを予定した記載としており、変更の必要はないと考え、原案のとおりとします。</p>